

# いぶりがぶ

No.55

2020年 秋号

WWW.IBUJIN.COM

坪院長の新・健康講座

尿路上皮腫瘍の治療について

当院の専門技術をご紹介します

最新治療事情〜透析室編〜

いぶ腎フレッシュユマン

新人紹介

管理栄養士のアイデアレシピ

おからのバターケーキ

〜ブルーベリーソースを添えて〜

ニュース

AI検温器を設置しました

冬場の発熱へ対応と注意点

予防接種のご案内

## News

### AI 検温器を設置しました

非接触でスピーディーに体表面温度を検知！

令和2年10月5日(月)

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、皆様に安心して受診していただくために AI（人工知能）を活用した検温器を導入しました。顔を写すだけでマスクの上からでも非接触式で人を自動検知し、瞬時に表面温度を表示します。

これにより来院患者様を素早くスクリーニングし、熱のある患者様は別導線でご案内した後に適切な診断を実施します。



# 尿路上皮腫瘍の治療について

今回は前号に続いて尿路上皮腫瘍(癌)の治療についてお話しします。

## 腎盂・尿管腫瘍は全摘出が原則

上部尿路腫瘍(腎盂腫瘍・尿管腫瘍)の治療は、転移がない場合、患側の尿管全摘を行います。腫瘍のみの部分切除は同側の尿路に再発する危険が高く、対側の腎臓が正常な時には尿管全摘が原則です。最近では腹腔鏡手術が主流となり、手術侵襲が軽減し術後の回復が早まっている印象です。

## 再発の多い膀胱腫瘍

膀胱腫瘍に対しては、まず尿道から内視鏡を入れて腫瘍の切除を行い(経尿道的内視鏡切除/TUR-Bt)、膀胱腫瘍(癌)の悪性度・深達度(根の深さ)を病理組織学的に調べます。

悪性度が軽く、根が浅くて削り切れたと診断されれば、追加治療無しで経過を見ます。

但し膀胱腫瘍は膀胱内再発が非常に多い病気で上部尿路に腫瘍が再発する事もあり、定期的な経過観察が必要です。

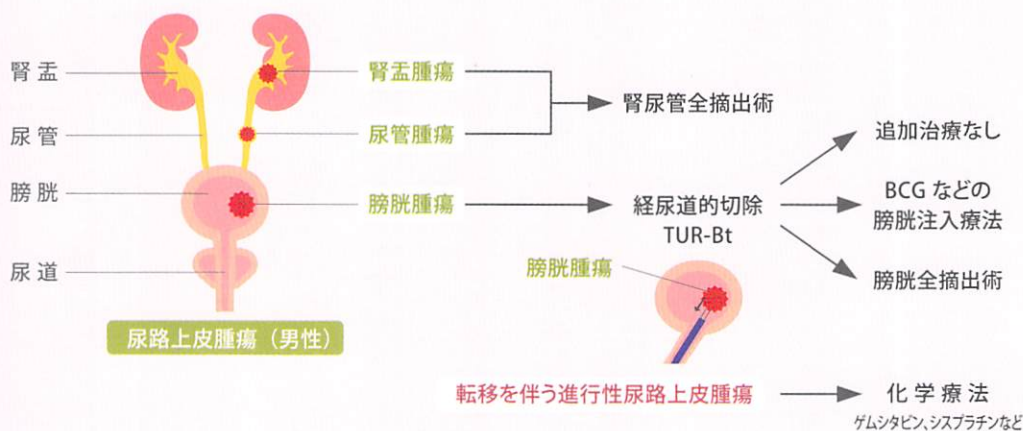
病理組織検査で、それ程根が深くないものの再発の危険が高い症例では、追加治療としてBCGといった抗腫瘍剤の膀胱内注入療法を行います。このBCG注入療法は非常に有効で、以前よりも膀胱を温存できる症例がかなり増えたように思われます。

病理組織検査の結果、悪性度が高く深達度も深い場合には、やはり膀胱全摘が避けられない症例もあります。膀胱を摘出した場合には尿路変更が必要です。ストーマを着ける失禁型と腸管を利用して代用膀胱を作製するなどの非失禁型があります。

尚、既に転移があったり、治療の経過中に再発・転移をきたした症例にはシスプラチン・ゲムシタビンといった抗腫瘍剤による化学療法を行い、副作用が少なく良好な治療効果が得られる症例もあります。



院長 坪 俊輔



## 安住・石掛管理栄養士のアイデアレシピ

- 《材料～ケーキ1本分(4人分)》  
縦9cm×横14cm×高さ4.5cmのケーキ型
- 小麦粉 .....80g
  - 砂糖 .....40g
  - はちみつ .....20g
  - 卵 .....120g
  - ベーキングパウダー .....3g
  - バター .....40g
  - 牛乳 .....10g
  - サラダ油 .....20g
  - おからパウダー .....6g
  - ブルーベリーソース .....80g
  - ブルーベリー(冷凍) .....20g
  - ミントの葉 .....2g



## 『おからのバターケーキ』 ～ブルーベリーソースを添えて～

ブルーベリーやおからには豊富な食物繊維が含まれ、整腸作用が期待されます。満腹感も得られ、食べ応えのある一品です。  
このレシピは6月に読売新聞社の医療情報サイト「ヨミドクター」に掲載されました。

- 《作り方》 下準備：オーブンは170度で予熱する。バターは溶かしておく。
- ① 小麦粉とベーキングパウダーをふるいにかけて、おからパウダーを混ぜる。
  - ② ボウルに卵、砂糖、はちみつを入れてもったりとするまで混ぜる。
  - ③ ②に①を加え混ぜる。
  - ④ バターと牛乳、サラダ油を加え、軽く混ぜ合わせる。
  - ⑤ ケーキ型に④を流し入れ、オーブンで焼く。
  - ⑥ 焼きあがったら4等分に切り分け盛り付ける。
  - ⑦ ブルーベリーソース、ブルーベリー、ミントの葉を飾る。

栄養価(1人分)

- エネルギー 265kcal
- 炭水化物 33.2g
- 脂質 11.7g
- たんぱく質 6.8g
- 食塩 0.1g
- 食物繊維 3.2g

レシピ作成：いぶり腎泌尿器科クリニック管理栄養士 安住ノリ子 石掛恵理



私が  
紹介します!

辻 和子 (透析師長)

## 最新治療事情 ～透析室編～

当院の最新医療と各科の専門技術をご紹介します。今回は透析室の仕事について伺います。

透析室は「腎臓の一部の機能を機械によって代行する」という人工透析療法を行うところです。腕の静脈から血液を抜いて、人工腎臓を介してきれいになった血液をまた静脈に戻す血液透析を行っています。糸球体腎炎や糖尿病、高血圧症、動脈硬化の合併症などにより透析を受けている患者様がいます。看護師 17 名、臨床工学技士 7 名、看護助手 6 名が力を合わせ、支え合って仕事をしています。

### 他職種が支え合う「チームワーク」の現場

透析室の朝は、全 40 台の透析機器の準備から始まります。現在、約 160 名の患者様が週 3 回の透析治療を受けています。エンドレスに続く透析生活を、できるだけ痛みが少なく安心して過ごしていただけるよう、全力でサポートするのが私たちの使命です。



機器の準備を終えると、担当の患者様のカルテを確認します。透析治療は精神面にも大きな負担のかかる治療です。患者様の心にしっかりと寄り添えるよう、お一人おひとりの状況を細かく把握するよう努めています。

準備が整うと患者様をお迎えし、まず体重測定を行います。適正体重と比較して除水計画を立てた後に、シャント状態の観察を行いお一人ずつ穿刺をします。

高齢で血管が細かったり蛇行しているために穿刺困難な患者様には、エコーを使って血管の状態を見ながら行う「エコー下穿刺」が多くなりました。

透析中は一時間毎に血圧測定、機器のチェック等を行いながら患者様の状態を把握します。透析患者様の体調は変化しやすく、きめ細やかな対応が必要とされます。食事指導やシャント管理指導、体重コントロール、フットチェックなどを行い、より良い透析生活がおくれるよう支援していきます。

また、ご自宅での様子や服薬管理についてケアマネージャーやご家族の方と情報共有し、連携をとっています。

当透析室では毎回医師の回診があり、全患者のベッドを巡回して、採血データや治療薬の調節など患者様に説明しています。

透析室の仕事に欠かせないもの、それは「チームワーク」です。特に近年、高齢の患者様が増え、車椅子を利用する方や、認知症のために介助を必要とする方が多くなりました。更衣のお手伝いやベッドへの移動といった介助をはじめ、患者様が安全に治療を終えて帰られるまでには、スタッフ同士の連携が欠かせません。医師、臨床工学技士、看護師、看護助手、そして遠方までスムーズに患者様を送迎する運転手。皆の力を合わせてこそその透析室です。「チームワーク」そして他職種の協働。この二つが当院の透析室の大きな強みだと感じています。



### プロフィール

伊達日赤病院で内科、精神科、泌尿器科など様々な科を経験をした後に当院開院と同時に入職。日々出会いに感謝しながら仲間を大切に、若手の育成に尽力している。「患者様と共に人生を歩み、歳を重ねていくことが喜びです」と語る。

Freshman



## いぶ腎フレッシュマン 新人紹介



内村 壽秀 (うちむら としひで)  
病棟看護師

8月に当院の職員となった看護師の内村さんは洞爺湖町出身。車の整備士から看護の道に入った珍しい経歴の持ち主です。

看護師を目指したのは、東日本大震災がきっかけでした。被災地で活躍する「災害看護」という職務の存在を知り「人を助ける仕事がしたい」と転職を決意。その後看護学校に入学し、今年で看護師 5 年目を迎えました。

内村さん自身も小学生の頃、2000 年の有珠山噴火により被災し、避難生活を経験しています。「活火山のあるこの地域でいざ災害が発生した時に、地域の人のために力を尽くしたい」との思いを胸に日々仕事に励んでいます。「今は一日も早く仕事に慣れることが目標です。患者様のために精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。」

趣味はバイク。休日はツーリングに出かけたり、釣りやキャンプを楽しむアウトドア派。



馬込 優 (まごめ ゆう)  
病棟看護師

札幌出身の馬込さんは結婚を機に伊達に移住し、7月に当院の職員に仲間入りしました。

これまで脳外科の専門病院に長く勤務しており、腎泌尿器科は初めて。新しい分野で知らないことが多く苦労する反面、「毎日が勉強です!」と目を輝かせます。

スキルアップに意欲的な馬込さんの目標は「沢山のことに気付ける看護師」。小さなことも見逃さない先輩スタッフの「気付き力」には日々、学ぶことが多いといいます。多方面からいろいろなことに気づけて、心遣いのできる看護師を目指して奮闘しています。

患者様に接する際に気をつけていることは、「言いたいことが言えるような雰囲気づくり」。慌ただしくならないようペースに気を配り、マスクの上からでもわかる明るい笑顔を心がけています。

趣味は歌うこと。ドリカムなど母親世代のレパトリーも得意。

## 冬場の発熱(対応と注意点)

外来師長 間明暁子

毎年、冬になると風邪やインフルエンザが流行しますが、今年は新型コロナウイルスとの同時流行が懸念されています。インフルエンザなのか新型コロナウイルスなのか、診断をつけるためには各感染症の抗原検査やPCR検査が同時に行える環境を整えた病院が求められます。ただし医療者の感染リスク対策を考えた際には、施行できる医療機関は胆振管内では限られてきます。今回は冬場の発熱時の対応と注意点についてお話しします。

### 発熱時の来院について。まずはお電話ください

来院時に熱のある患者様は、他の患者様と接触しないよう、看護師が直接別のルートから隔離スペースにご案内しています。診察前に尿検査を行い、泌尿器科の疾患による発熱が疑わしいかどうか医師が診断します。

泌尿器科の疾患では、急性疾患をのぞき風邪の症状を伴う発熱は通常ほとんどありません。無症状で発熱のみというケースも多くみられます。発熱時に泌尿器科の疾患が疑われる際には、来院前にはお電話ください。

泌尿器科疾患ではない症状がある場合には、症状にあった科の診察を受けていただくようお願い致します。息苦しさ・咳・関節痛・のどの痛み・味覚の異常・嗅覚の異常などの症状は専門の科を受診してください。

- ・受診予約日に体調がすぐれない時には、来院前にご連絡ください。
- ・患者様がお元気で、付き添いの方が発熱や感冒症状があったり体調が悪い時には、付き添いを交代するなどして来院をお控えください。
- ・来院された方皆様の検温をさせていただきます。
- ・看護師がご案内するまで、場合によってはお車でお待ちいただく事があります。
- ・有熱者の方で直接受診された場合は、必ず受付へお知らせください。

## 感染症予防のための日常生活での注意点

冬場は空気が乾燥してウイルスが繁殖しやすくなるため、夏場よりもさらなる感染症への注意が必要です。新しい生活様式として、マスクの着用や手洗い(手指消毒)、3密の回避など、皆様も普段から実践されていることと思いますが、これからの季節に特に気をつけたい事柄についてお伝えします。

行動面ではやはり、感染が拡大している地域への行き来を控えることが一番の予防策です。人混みへの外出もできる限り避けましょう。さらに普段から「今日はどこに行つて誰に会ったか」をメモしておくとういでしょう。自身の行動や接触した人を把握することで、万が一感染した場合にクラスターを防止する手立てともなります。

生活面では、健康状態をセルフチェックする習慣をつけましょう。毎日の体温測定など、意識的に取り組むことで体調の変化に気づきやすくなります。調子がよくない時は無理をせず自宅でゆっくり休養をとってください。

また程よい運動と規則正しい食生活が健康には欠かせません。適度な運動は体力低下を予防し、免疫力を高めます。真冬は路面が凍結し転倒の恐れがあるので、室内で運動をすることは避けましょう。自宅で簡単なエクササイズの動画を見ながら行ったり、ラジオ体操もおすすめです。短時間でよいので毎日継続することが大切です。

### 予防接種を受けましょう!

新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行を抑えるためにも、インフルエンザの予防接種を受ける事をおすすめします。詳しくは予防接種のご案内をご確認ください。



## インフルエンザ予防接種のご案内

接種期間：令和2年10月12日～12月26日

伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町にお住まいで予防接種を受ける日までに65歳以上になる方。  
上記4市町にお住まいの60歳～64歳の方で心臓病、腎臓病、呼吸器の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がいがある方。

[1回]  
1,500円

同4市町にお住まいの65歳以上で生活保護世帯の方と世帯全員が市民税非課税の方。  
<各市町発行の生活保護受給者証、非課税証明書(手数料が必要です)を当日ご持参ください>

無料

一般の方

[1回]  
3,600円

※ワクチンがなくなり次第、終了とさせていただきます。  
※次回受診日にあわせて接種することをお勧めいたします。

※当院の接種対象患者様は15歳以上の成人の方のみとなります。ご不明な点などございましたら、職員までお問い合わせください。

インフルエンザ予防には、流行期(12月下旬～3月)前に予防接種を受けることが大切です。接種を受けてから抵抗力がつくまでに二週間程度かかるので、12月上旬までには予防接種を済ませましょう。マスクの着用、うがい・手洗いなど日常生活での対策も忘れずに!

## 編集後記

秋も深まり朝晩は冷え込むようになりました。コロナの勢いは未だ衰えぬまま、間も無くインフルエンザの流行する季節が到来します。表紙でお伝えしました通り、当院ではAI検温器を導入し万全の対策で感染防止に努めてまいります。(Y)



発行：いぶりぶ発行委員会 ■発行/令和2年10月10日  
■4月・7月・10月・1月の年4回発行 発行責任者：横井浩  
伊達市梅本町2番地15 いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL:0142-21-1400  
※本誌掲載の写真・記事無断転用は固くお断りします。  
「いぶりぶ」のバックナンバーは、当クリニックHPでご覧いただけます。  
<http://www.ibujin.com/>